

# 那須与一伝承館通信〈第14回〉

## ◎与一・余一表記に関する覚書

今回は那須与一伝承館が収蔵する資料の中から、与一・余一表記に関する覚書を紹介いたします。

本品は、江戸時代後期の那須家の当主(資興)が「那須与一」の表記について、「与一」と「余一」のどちらが正しいか考察した覚書です。

『平家物語』の諸本や『吾妻鏡』(東)

### 「原文」

与一・余一之事、古本平家物語皆々相考候処、長門本平家物語・南都本平家物語等、古筆にて余一と御座候へ共、其外之古本共二与一と有之候、真田・浅利・那須とも二、平家・東鑑・系図、余一とも与一とも同様入雜り申候、通用と相見へ申候、一ノ市二用申候事ハ見へ不申候、十一子故余一と用申候儀不分明候、浅利余一ノ十一子と世間ニ申候へ共、大系図相考見申候へ共、第十子にて御座候、是又例ニ難罷成候、十子之外ノ余之字用申候事ハ、林学士之日本百将伝抄余五將軍平惟茂之伝ニ一説ヲ引候て有之候、此一説誤伝ニ候哉、何ソ系図等ニも出申候哉、不存候、已上、  
七月六日



与一・余一表記に関する覚書(那須家所蔵)

鑑(の記述、さらには浅利与一(甲斐源氏の一族)や真田与一(相模国の武士)の例まで引いて考察しています)が、明確な結論は出せなかったものとみられます。  
現在、この資料は那須与一伝承館において展示されています。ぜひご覧ください。  
■問い合わせ  
那須与一伝承館 TEL(20)0220

## 彫刻

### 市内で作られた作品とその作者

## 周遊 29

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は、ふれあいの丘のシャトー・エスポワールの南側から東方にある大工房へと続く小道の付近にある彫刻です。

一見すると、人間の上半身をかなり簡略化して



ナスノガハラ、ダ ビル ザマン  
Nasunogahara'da bir Zaman(那須野が原のひと時)  
レムジ サヴァス トルコ共和国 2001年

板状にしたようなものが直立しています。その元には四角い台座があって、そこにもまるでその影であるかのように、同じ形をしたものが浮き彫りにされています。

作者は、「時空」に強い関心を寄せていました。それはずっと昔から一本の線で結ばれているが、抽象的な存在。たとえば影は、延びたり短くなったりして、時空を具体的に感じるものになっているといいます。そうした感覚を持った作者は、この作品は那須野が原(ふれあいの丘)における「私の存在の証」であると説明しています。



レムジ サヴァス氏

作者は、1947年トルコ共和国生まれのレムジサヴァス氏。地元の教育大学を卒業し、後にパリに5年間留学。1985年にはトルコにある国立ハジェテペ大学の彫刻科の講師に、後に教授となりましたが、2006年に退職。首都アンカラにおける彫刻展のほか、フランス・ハンガリー・イラクなどの国際展覧会にも参加。近年では金属を用いた作品が数多く見られます。

### 設置場所案内図(★印)



### ■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL(23)8718